

塾は自己革新を遂げ、
真に価値あるヴィジョンを掲げて前進を

来る2020年、いよいよ新しい大学入試が始まります。またそれは、新しく設計された新学習指導要領が小学校から中学・高校へと順次導入され始める年でもあります。新しい日本の教育システムが動き出し、子供たちの学びも新時代を迎えるのです。

こうしたなか、つい先日、大学入学共通テストで活用されるはずだった英語の民間資格・検定試験の導入延期が突如発表され、当事者である高校生をはじめ、公教育現場、延いては社会全体に大きな動揺をもたらしました。

むろん、この顛末について国を責めるのは簡単です。しかし見方によっては、国ですら試行錯誤をし、場合によってはプランを撤回しなくてはならないほど時代の変化は激しく、未来予測が困難になっているのだと捉えることもできます。

とはいえ間違いなく断言できるのは、こうした時代の変動に臆して待ちの姿勢をとり、

現状に踏み止まっていては、新時代を生き抜いていくことは難しいということです。私たち私教育の世界も、もはや過去の延長では立

既存のコース・校舎の再編、英語・能動学習の充実と促進、強力な情報発信力を

学びの新時代を迎えて、革新そして成長へ。これは2020年5月で55周年を迎える私たちeisuのテーマです。このテーマを形にするため私たちが現下に取り組んでいる課題を、同業の皆様が参考事例になるのを願って何点かにまとめてみます。

(1) 既存のコース・校舎のリストラクチャリング

昨年からのeisuの基幹コースである「特講(中学受験部門)」と「本科(高校

ち行かなくなる瞬間がすぐそこまで見え始めています。今こそ未来を担う子供たちのために、塾は自己革新を遂げ、リスクをとってでも真に価値のあるヴィジョンを掲げて前進するべきでしょう。それこそ「官」ではなく「民」だけがなしうる、教育による社会貢献だと思います。

(2) 低学年コースの再編

受験部門」のリストラクチャリングに取り組んでいますが、2020年もこれを継続します。展開地域に対してできるだけサービス提供機会を均等化したいという思いと、生産性の向上とを両立させるため、内容・時間帯・開講校舎すべてについて再吟味しています。

(3) 英語教育の充実

共通テスト利用が見送られただけで、英語民間資格・検定試験の受験に対する意義が低下したわけではありません。まして英語4技能学習の重要性が低減したわけではありません。eisuでは「セイン英語ジム」、オンリー・ワンの英単語教材「単語塾」、毎年開催している文化イベント「VOCABULARY CONTEST」など、独自の手法を用いて顧客に満足してもらえ英語教育を推進します。

(4) 能動学習の促進

授業の枠外でもセルフトレーニングへと子供たちを促していく努力を、もっと強化する必要があります。そのための環境とツールの充実、特に「eドリル」の活用の幅を広げたいと考えています。

学びの新時代を迎えて、革新、そして成長へ 2020年5月、 55周年を迎えるeisu group

eisu group

三重県津市

山本 千秋

最高責任者 (CEO)

eisu group

eisu 小中部

eisu 高校部

nice

「セイン英語ジム/パズル道場

/eドリル」を主宰し、

子供たちの

「能動学習」の

推進に努める



シュラー「美しい夢を見ることが出来なくなった時、人間は死んでいる」、吉田松陰「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし、故に、夢なき者に成功なし」など、夢をめぐるさまざまな言葉からインスパイアされた、eisu 創立55周年を記念するエンブレム「夢の翼」。バッジにして社員や生徒たちに広く頒布される。

(5) セミナー・説明会へのさらなる注力

社会情勢が混乱し不確実性・不透明性を増せば増すほど、塾による教育情報の発信・案内は価値と重要性を増します。eisuでは最高執行責任者の伊藤奈緒が先頭に立って、ここ数年にわたり様々な角度から啓蒙・情報発信活動を行ってきました。手前味噌かもしれませんが、その内容と活動量は現時点では業界を先導できる水準に達していると自負しています。全国を舞台とする大学受験部門だけでなく、三重県内の中学受験・高



最高執行責任者の伊藤氏による「2019夏の教育セミナー」(7月8日三重県松阪市フレックスホテルにて)

eisuに対する信頼を高めるうえでも非常に効果があります。この強力な情報発信力をeisuの競争優位性の一つとして、いっそう磨き上げていきます。

**夢見ることこそが生きるエネルギーであり、
広い世界に飛翔させる原動力**

話は変わりますが、先日11月3日の文化の日、eisuが主催する恒例の「第32回eisu文芸カップ」文芸コンテスト・英語スピーチコンテストがeisu倶楽部湯の山(三重)で催されました。そうした場で子供たちが発揮する素晴らしい表現力や卓越した個性を目の当たりにすると、子供たちには無限の



「第32回eisu文芸カップ」表彰者記念撮影(11月3日eisu倶楽部湯の山(三重))

向上意欲が現にある、だから私たちもそれに応え、真摯に寄り添う限り、私教育の世界にはこれからの成長の余地が十分にあるという楽観的な気持ちを抱

てきます。

2020年に創立55周年を迎えることもあり、こうした思いを社員や顧客と共有するために、ささやかながら新しいエンブレムをつくりました。「Life Dream」というフレーズを付したこのエンブレム「夢の翼」は、夢見ることこそが生きるエネルギーであり、私たちを広い世界に飛翔させる原動力なのだというメッセージが込められています。夢を抱くということ、それは、与えられた現実を埋没するのを良しとせず、何らかのヴィジョンを掲げ、高みを目指して行動することです。

夢の翼によって象徴される、無限の向上意欲。子供たちに做って、私たち教育を生業にする者もこの精神を共有し、素晴らしい2020年へと羽ばたいていきたいものです。